

事前評価報告書

令和5年9月6日（水）

研究種別	一般研究	
研究課題名	アユの生息に及ぼす環境要因と放流適期の解明	
研究期間	令和6年度 ～ 令和9年度	
	評価項目	評価点
1	研究の必要性	4.7
2	研究内容の新規性	4.0
3	研究目標、研究計画の妥当性	3.3
4	研究体制の妥当性	3.7
	総合評点	3.9
[評価所見]		
<p>内水面漁業の活性化と地域振興のためには、重要魚種であるアユの不漁と河川環境の因果関係や最適な放流方法を明らかにすることが不可欠である。特に富士川水系のアユ資源の動向については県内外の関心も非常に高く、本研究成果の高い波及効果が期待される。</p> <p>環境DNAの活用や河川環境に応じたマニュアルの作成など、これまでにない手法が計画されている。</p> <p>研究目標、計画ともに適切に設定されている。アユや河川環境に関する過去のデータを解析に活用したり、藻類群集組成、土砂の流動状況、海洋環境の変動、他の国内河川との比較などを考慮した分析も検討していただきたい。</p> <p>過去の研究実績の十分であり、研究員の専門性、技術面においても妥当であると評価できる。</p> <p>本研究の成果によりアユの遊漁者数の増加に繋がれば漁協の活性化、地域経済への波及効果が期待できる。</p> <p>富士川水系では河川環境が大きく変動しているなか、様々な自然要因・人的要因がアユ資源の動態に複合的に関与していることと予想される。このため、多角的な視点から学術的にアユ資源の低迷の原因究明に努めていただきたい。</p>		